



震災マニュアル



2025 年 1 月 18 日

パークシティ金沢八景管理組合・自治会

目次

改正履歴	2
------------	---

第1編 全居住者向け

1. はじめに	4
2. 震災マニュアルのポイント.....	5
＜当パークシティのハザード／リスク＞.....	6
3. 各住戸での対処.....	9
3.1 事前準備－減災のために.....	9
(1) 非常時持ち出し品.....	9
(2) ライフライン被害に備えた備蓄.....	9
(3) 住戸内リスクの低減.....	11
(4) 各住戸の安全措置と家族との情報共有.....	14
3.2 地震発生時と避難.....	15
3.3 ライフラインの点検と2次被害の防止.....	18
4. 当マンション全体としての対処.....	21
4.1 地震への備え.....	21
4.2 地震発生時.....	21
4.3 避難生活.....	22

添付1a 家庭での非常用品の備え.....	23
-----------------------	----

添付1b 金沢区防災マップ～防災用品の準備、防災情報Eメール、災害時の安否確認	24～25
--	-------

添付2 応急手当.....	26～27
---------------	-------

添付3 マンションの概要、震災発生時の拠点・グループ分け、主な共用設備と震災時の 影響.....	28
---	----

添付4 パークシティの防災関連設備・機器等（全居住者向け）.....	29～41
------------------------------------	-------

第2編 対策本部メンバー向け

5. 対策本部と各棟階段グループの役割.....	43
6. 震災発生からの活動の流れ.....	45
7. フェーズ毎の行動基準.....	46～49

添付5 パークシティの防災関連設備・機器等（対策本部メンバー向け）.....	50～56
--	-------

添付6 パークシティ金沢八景管理組合の防災対策準備品リスト.....	57～58
------------------------------------	-------

添付7 近隣の役所等連絡先リスト	59
------------------------	----

添付8 地域防災拠点及び広域避難場所.....	60
-------------------------	----

添付9 ハザードマップ.....	61～68
------------------	-------

改正履歴

2012 年 12 月：震災マニュアルの初版を制定

2023 年 1 月：居住者向け簡易版を制定

- ・ 地震発生時の避難先を変更
- ・ 地震発生時の水道・ガス・電気・排水などの扱いを規定
- ・ 家具転倒防止についての記述を追加

2024 年 11 月 2 日：主として震災マニュアル（居住者向け）を改正

- ・ 居住者向け簡易版とその解説（広報誌 Mew No. 103、2023 年春号に掲載）を震災マニュアル本文に取り入れ
- ・ 「第 1 編：居住者向け」と「第 2 編：対策本部メンバー向け」に分割、「添付 4 パークシティの防災関連設備・機器等」を第 1 編と第 2 編に分割。
- ・ 当パークシティのハザード／リスク及び住戸内リスクの低減（家具の転倒防止等）の記述を充実。
- ・ 「要援護者」と「要支援者」を暫定的に「要援護者」に統一
- ・ 一時集合場所として「泥亀一丁目公園多目的広場」を「対策本部の指示する場所」に変更
- ・ 「添付 4 パークシティの防災関連設備・機器等（全居住者向け）」にバルコニー避難経路を追加
- ・ 「地域防災拠点」・「広域避難場所」についての記載を第 2 編に移動
- ・ 「東京都中央区の高層住宅防災パンフレットからの抜粋」を削除
- ・ 「家庭での非常用品の備え」及び「災害用伝言ダイヤルの利用方法」を添付 1 「横浜市の震災対策資料」の該当ページに差し替え
- ・ 対策本部体制図を更新

2024 年 11 月 30 日：津波到達時間の変更

津波浸水想定について（解説）：

<https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/774580.pdf>

の p. 16、表 2 で津波の到達時刻は金沢区海岸まで最短で 31 分とあるが、別資料

（<https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760370.pdf> 及び

<https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760399.pdf>）によると平潟湾までの到達時刻は 1 分とある。神奈川県県土整備局河川下水道部港湾課なぎさグループに問い合わせたところ、31 分とあるのは南北に延びる金沢区海岸の中央部への到達時刻であって、金沢区南端の平潟湾への到達時刻は 1 分とのこと。それに基づき、＜当パークシティのハザード／リスク＞ c) 浸水（津波及び内水浸水）の記述を訂正。

2025 年 1 月 18 日：解説をマニュアルに反映

- ・ 東日本大震災の際に当パークシティが経験した揺れを震度 5 弱から震度 4 に訂正。
- ・ 津波により管理センターの火災監視・一斉放送が出来なくなった場合の対応を規定
- ・ 排水縦管の点検方法を追記
- ・ その他誤記・リンク切れ箇所を訂正

第 1 編 全居住者向け

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」では、地震の揺れ等による直接的な被害の他、生活インフラが寸断されるなど様々な問題が複合的に発生しました。これらの教訓を踏まえ、より円滑に震災を乗り越えることを目的として本マニュアルは、パークシティ金沢八景（以降、当マンションとします）の管理組合が中心となり、自治会と共同で当マンションに関する地震への対応を整理したものです。

地震等の災害発生時の基本的な考え方

地震発生から1時間程度は、組織的な活動は立ち上がらないと思われます。このため、初動では各戸ならびにその近隣で助け合い、以下の点に注意して対応ください。

- ① 怪我をしない：怪我をしにくい場所でとにかくやり過ごす。怪我をしにくいように家の中を整理・対策する。
 - ② 被害を拡大しない：火災の初期消火、電気、ガス、水道の閉止。ただし、自分の安全が最優先なので、火災の初期消火などでは絶対無理をしない。津波に対しては、上層階に避難。
 - ③ 近隣の助け合い：近隣で声を掛け合い、初期消火、けが人支援など、可能な範囲で助け合い。
 - ④ 津波情報、近隣住戸火災の有無・延焼危険性の確認
- これらのための注意事項、事前準備、参考情報等を2.以降に記載します。

注意事項：本マニュアル作成の基本的な考え方は以下ですので、これを踏まえて内容をご確認ください。

- 管理組合および自治会は、このマニュアルをその全知を持って作成するものの、その内容の是非を判断し、運用するのは、各戸の責任と理解ください。
- 災害への対応は、基本的に各戸にてお願いいたします。しかしながら協力できるところは協力するため、その考え方、方法等を整理しています。
- 基本的な考え方は、「地震からマンションを守る（管理組合の震災対策）」（（一社）マンション管理業協会 2019年4月発行）
<https://www.kanrikyobook-guest.com/p/item-detail/detail/i32.html> を基としています。
- 本資料（案）の内容は必要に応じ、その都度、見直す予定です。

2. 震災マニュアルのポイント

ポイント0. 想定されるリスクを把握

当パークシティ周辺のハザードマップにより、想定される震度、浸水、最寄りの避難場所の特性等を把握して、対処方法と事前のリスク軽減方法を策定します。

ポイント1. 居住者同士が助け合う「共助」が前提

東日本大震災では、通信網・交通網等が麻痺し、同じマンションに住む居住者同士のネットワーク・コミュニケーションの重要性が明らかとなりました。

これを踏まえ、震災発生から一定期間は外部からの支援は受けられないことを前提に、居住者同士が共に助け合って震災を乗り越える方法を策定します。

ポイント2. 主な活動内容は「居住者の安否確認」「情報の共有化」「マンションの安全確認」

このマニュアルでは、「居住者の安否確認」「情報の共有化」「マンションの安全確認」を主な活動目的として定めています。

ポイント3. 「震度5強」以上の地震発生により行動開始

このマニュアルは「震度5強」以上の地震が発生した場合に活用します。

※震度5強とは、東日本大震災において首都圏で観測された数値です。

※震災直後はライフライン（水・ガス・電気等）が停止している状態を想定しています。

※発生時間帯に係わらず行動を開始します。

ポイント4. 「対策本部」「待避所」を設置

マンション全体の統括機関として「対策本部」を、要援護者や負傷者等の一時待避用として「待避所※」を設置します。（※：各棟ピロティ、テント、管理センター、B棟プレイルームから対策本部が選定）

※対策本部メンバーの構成については5. 対策本部と各棟階段グループの役割（43ページ）をご参照ください。

※対策本部メンバー不在時は、在宅居住者が代行を努める前提となっています。

※居住者の安否確認等はまず「グループ単位」で実施します。グループの分け方については同じく別表1（44ページ）をご参照ください。

ポイント5. 震災時の非常食・飲料水等は各家庭で準備

震災時の非常食・飲料水等は各家庭に必要な分だけ備蓄してください。

＜居住者の皆様へのお願い＞

（事前準備）

- まずはこの「震災マニュアル」をご確認のうえ、震災発生時における行動基準や段取り等を把握して下さい。
- 防災訓練等のイベントには積極的に参加してください。
- いざという時のために、日頃からマンション内での挨拶を励行するなど、コミュニケーションの向上にご協力をお願いします。
- 家庭内の震災対策は各自でご対応ください。（非常食や備品の準備、家具の転倒防止など）
- 震災発生時の家庭内の役割分担を決めておいてください。

（震災発生後）

- 在宅中に「震度5強」以上の地震が発生した場合、まず身の回りの安全確認を行ったうえで、マンションの共助活動（安否確認等）に参加してください。
- マンション不在時に発生した場合は、帰宅時に必ず「対策本部」に立ち寄ってください。
- 可能な限り対策本部等の活動にご協力をお願いします。

a) 想定震度

横浜市の震度ハザードマップによると、当パークシティ周辺の想定震度は震度6強（元禄型関東地震）となっています。

一方、東日本大震災に当パークシティが経験した震度は、出典1によると震度4であり、来る震災は東日本大震災の時の揺れの10～17倍以上（出典2、最大加速度で比較）の揺れとなります。

高層階での震度については、防災科学技術研究所の実大三次元震動破壊実験施設（E-ディフェンス）を用いた検証実験では、地上で震度5強の揺れに対し、10階で震度7になるとして実験が行われています（出典3）。また、出典4のp.52の図3-1-9によると、11階程度から家具類の移動の発生割合が高くなっています。

このため、家具の転倒防止には特段の措置が必要です。また震度6強の場合、水道・排水管が損傷する事態も想定する必要があります。

なお、同じく出典4のp.49の図3-1-2によると、SRC構造14階建てである当パークシティ建物の固有周期は約0.7秒であり、長周期地震動の範囲からは外れています。

出典1) 災害時地震・津波速報—平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（気象庁、2011年8月17日）

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_201101/saigaiji_201101.pdf

出典2) 住宅構造研究所～地震と住宅の歩み

https://www.homelabo.co.jp/select/history01_01.html

出典3) あなたは何階に住んでいますか？ 1階は震度5強でも10階では震度7!? 高層ビルの危険を実験で検証 <https://www.youtube.com/watch?v=9C0E12evQHY>

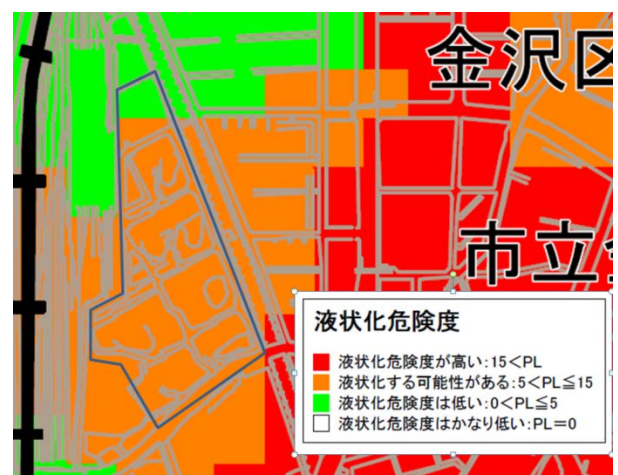
出典4) 平成23年度長周期地震動等に対する高層階の室内安全対策専門委員会報告書、東京消防庁、2012年2月）第三章 <https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/content/000011483.pdf>

b) 液状化

当パークシティの全域で液状化の可能性があります（液状化可能性指数 PL：5～15）。液状化面積率は18%。出典5のp.3-9）。もし地中に埋められたライフライン（電線、水道管、下水管、ガス管）が破損すると、ライフラインが使用できない期間が長期化します。

出典5) 「南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定 第3部被害想定手法」（平成25年5月14日。東京都防災ホームページ、p.3-0）

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/000/401/assumption.part3.pdf

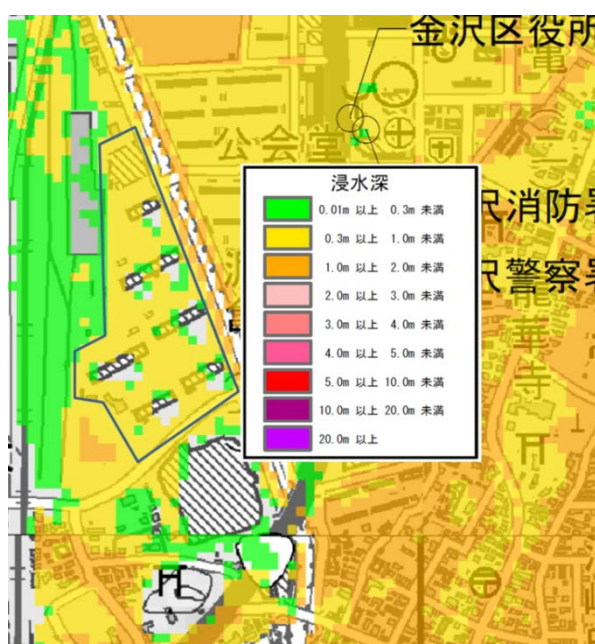


c) 浸水（津波及び内水浸水）

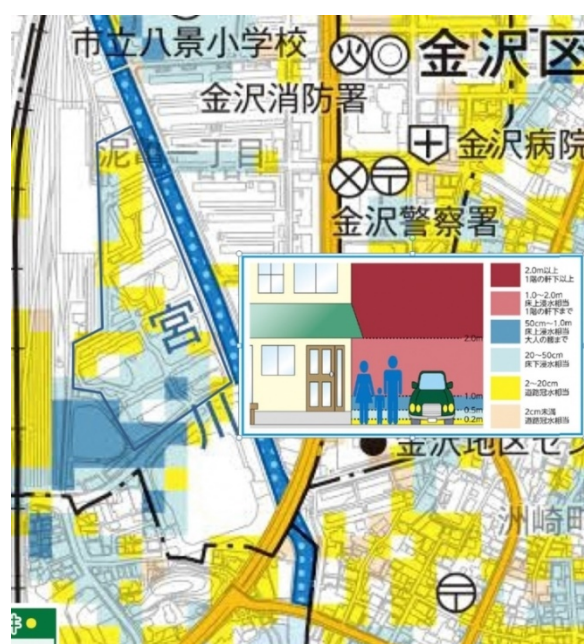
神奈川県津波ハザードマップによると、各棟で浸水 30cm～1m（下図左の黄）。ただし盛り土になった箇所は 30cm～浸水なし（同じく緑又は白）。

また、内水浸水（下水道からの氾濫）ハザードマップによると、ゲート付近で 50cm～1m（下図右の濃い青）、A 棟・C 棟で 20cm～50cm（同じく薄い青）、その他の棟では 20cm～浸水なし（同じく黄または白）となっています。

- ・ 1 階住戸は床下高さが 1.1m あるので、想定の上では床上浸水の範囲外。
- ・ 床下高さがない管理センターは、わずかな浸水で火災監視盤や放送盤が使えなくなる。
- ・ 30cm 強の浸水で各棟階段入口の床面近くにあるコンセントが浸水して停電になる。
- ・ 数十 cm の浸水で各棟の主幹盤室内のインターネット回線用機器が浸水すると、インターネットが使えなくなり、B 棟のポンプ室の制御盤が浸水すると、給水ポンプと消防ポンプが使えなくなる。
- ・ もし各棟主幹盤室の配電盤並びに変電設備が浸水すると、停電が長期化する。



5つの地震による津波浸水域



内水浸水域（下水道からの氾濫）

表 1：津波ハザードマップで想定された 5 つの地震モデル

地震モデル	最大津波高さ	平潟湾までの到達時間	当パークシティ内の浸水深さ	算出資料
相模トラフ沿いの海溝型地震（西側）	3.4m	30 分	なし	https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760427.pdf
相模トラフ沿いの海溝型地震（中央）	2.9m	110 分	0.1～1m	https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760461.pdf
元禄関東地震（震源：房総半島南端の野島崎付近）	2.8m	1 分	0.1～1m	https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760370.pdf
元禄関東地震と国府津-松田断層帯地震の連動地震	2.8m	1 分	0.1～1m	https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760399.pdf
慶長型地震（旧ハザードマップの想定）	3.9m	75 分	なし	https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/760092.pdf

表 1 で分かるように、震源地が「相模湾中央から野島崎沖にかけての海域」となっていたらパークシティが津波浸水する恐れがあります。うち元禄関東地震タイプとそれに連動する地震の場合、地震発生からわずか 1 分で最大波が平潟湾に到達します。これではとても浸水防止対策を講じる余裕はなく、避難を優先させざるを得ません。

(パークシティ周辺の状況)

旧震災マニュアルで一時（いつとき）集合場所としていた泥亀 1 丁目公園多目的広場（旧三井グラウンド）は 30cm～2 m（前ページ右図の黄及びオレンジ）。地域防災拠点である八景小学校でも 1 m～2 m の津波浸水が想定されており、同小学校まで避難するにも浸水域を通る必要があります。

このため、パークシティで床上浸水の可能性がある 1 階の全ての居住者は念のため階段の 3 回以上に垂直避難するほかは、在宅避難が最も適切ということになります。

d) 火災

ガスは震度 5 相当以上の揺れで自動的にストップします。ガス調理器を使用中に地震が発生した場合は、消火よりも、熱湯や油でやけどしないようただちに台所から出て身の安全を守ることを優先し、揺れが収まってから消火を確認しましょう。電磁調理器を使用している場合は地震発生時の自動消火機能があることを確認しましょう。

東日本大震災では、震災時の火災の原因の 54% が電気関係でした。建物の倒壊や家具の転倒で配線が損傷し、通電時にショートして出火する通電火災の可能性があります（出典 6）。その他の出火原因としてはヒーターなどが可燃物に接触して通電時に着火する場合があります。そのほかコンセントにホコリが溜まって漏電する場合があります。

当パークシティでは建物が倒壊する可能性は少ないので、家具の転倒防止を適切に行うことによって、配線損傷による通電火災のリスクを下げるができます。

一方、当パークシティでは金沢消防署に配備されている 35m 級はしご車が届くのは 11 階までなので、11 階～12 階及び 13 階～14 階の踊り場にはホース付き屋内消火栓が設けられています（消防隊員用）。

出典 6) 総務庁消防庁「地震火災対策について」

https://www.fdma.go.jp/publication/ugoki/items/rei_0212_04.pdf

e) ガラス等の破損

窓ガラス、並びに、食器棚や飾り棚のガラス戸が破損して床に散乱して足を怪我する恐れがあります。また、東日本大震災では当パークシティの高層階で吊り下げ式照明器具が激しく揺れて破損しました。

ガラス飛散防止シートを貼り、照明器具を天井貼付け型に替えることによってリスクを低減できます。

f) 飲料水・生活用水・排水

階段入口の床直上にあるコンセントはわずかな津波浸水・内水氾濫で没水し、ブレーカーが落ちてその階の全住戸が停電します。コンセントが濡れて通電が再開できるようになるまでの間、停電が続くリスクは少なくないと考えられます。

パークシティの現在の排水縦管は耐震仕様ではないため、もし各階段のどこかで排水縦管が破損すると、その階段全体でトイレの使用はもとより水道も使用できなくなります。さらに、b) に述べた液状化現象がパークシティの一部で起きた場合、その程度によって埋設されているライフラインが破損する可能性がゼロとは言えず、そうなると断水・トイレ排水禁止がさらに長期化しまうリスクがあります。

3. 各住戸での対処

3.1 事前の備えー減災のために

(1) 非常時持ち出し品

床上浸水、出火、延焼の恐れがある場合は、同じ棟の階段の安全な場所に一時避難する必要があります。また実際に被害が生じた場合や、介護が必要な場合は、対策本部の調整のもと、当パークシティ内の救護所やパークシティ外の避難所に避難する必要があります。その際の持ち出し品をキャスター付きスーツケース、リュック等にまとめておかれるとよいと思われます。

内容は、添付1a「家庭での非常用品の備え」(23ページ)及び添付1b「金沢区防災マップ～防災用品の準備」(24ページ)を参照ください。これに加え、下記は実際役に立ったと紹介されています。

予備のめがね	入れ歯	補聴器
ヘルメット	ゴーグル	防塵マスク
厚手の靴下	携帯充電のためのもの	

(2) ライフライン被害に備えた備蓄

a) 水の確保

被害状況によりますが、電気、ガス、上下水道等のインフラが被害を受けた場合でも何日か、自宅で生活できる程度の準備が必要。

- ・ 飲料水は3日分を基本とし、可能であれば1週間とする。
- ・ 生活用水(トイレ)の確保のため、浴槽に残り湯をためておくことは、地震発生後に排水が禁止される可能性があるため、推奨しない。

b) 非常食・携帯コンロ(添付1a「家庭での非常用品の備え」(23ページ)を参照)

c) 簡易トイレ

ライフラインの損傷状況によっては停電と排水禁止が長期化する可能性があります。次ページ上段に従って必要日数分の携帯トイレを備蓄してください。

市販の携帯トイレではとても間に合わない可能性があるため、1回ずつパッケージになっているものを買う代わりに、ポリ袋(不透明、45リットル)、凝固剤、防臭BOS袋、消臭剤をそれぞれ備蓄しておき、下記要領により自宅トイレを非常用トイレにすることを推奨します。

自宅トイレを非常用トイレにする方法(次ページ下段の図を参照)

- ・ 便器カバー用ポリ袋(45リットルのゴミ袋)を便座の下に被せ、粘着テープで固定。
- ・ 排泄物用ポリ袋(45リットルの不透明なゴミ袋、)を便座に被せる。
- ・ 排泄物用ポリ袋に凝固剤を小さじ半分～一杯程度投入。
- ・ 防臭のため、縛った排泄物用ポリ袋を防臭BOS袋に入れて保管。
- ・ 適宜、消臭剤/消臭スプレーで消臭。

【携帯トイレを準備する】

● 携帯トイレ



※携帯トイレには、吸水シートが入ったタイプや凝固剤を入れるタイプ等があります。

〈節約した使い方も覚えておくとお得です!〉

大便…1人1日1回、1回ごとに携帯トイレを交換

小便…1人1日3回、3回ごとに携帯トイレを交換

※節約した使い方の場合、1人1日2枚で済みます。

01

便器カバー(青)を
便器にかぶせ
便座をおろし固定



02

便座の上
に汚物袋(黒)をかぶせ
凝固剤を入れる



03

排泄後、汚物袋(黒)を
取り出し、口をむすぶ



04

防臭袋BOS(白)に
汚物袋(黒)を入れ
袋の口をねじり
しっかり結ぶ



出典: 驚異の防臭袋 BOS 公式サイト 非常用トイレ <https://bos-bos.com/product/toilet/>

(3) 住戸内リスクの低減

自身のけがに直結します。できるだけ準備してください。

a) 家具の転倒防止対策

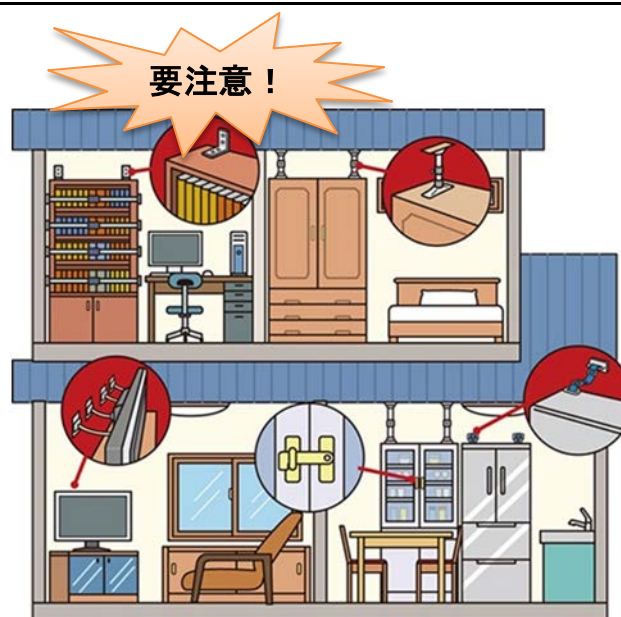
家具転倒防止の方法

突っ張り棒

家具転倒防止のために、家具と天井の間に取り付ける突っ張り棒（伸縮棒）。

和室とキッチンの下がり天井とダクトは強度がないため、効きません。

家具と天井の間を埋めるように空の段ボール箱を置くのも有効です。



転倒防止金具

仕切り壁には家具と壁をL字金具でネジ止め。

コンクリート壁に金具などをねじ止めすることは禁止です。壁と家具をそれぞれ強力に接着する粘着型器具と他の転倒防止器具を組み合わせましょう。

家具転倒防止板・マット

家具の下に敷くタイプ。これ単独では効果が少ないが、突っ張り棒など他の方法と組み合わせるとよい。

家具の転倒防止は、リフォームの際などに工務店に相談するのもよいでしょう。

家具の転倒防止は負傷するリスクを減らすのみならず、配線の損傷による通電火災のリスクも減らすことができます。

① 転倒防止金具

壁にL字金具をネジ止めして家具を固定する方法が最も効果的です。

- ・仕切り壁の場合：住戸内の仕切り壁の根太がある箇所にはネジ止めが可能です。
- ・コンクリート壁の場合：当パークシティでは隣の住戸との間のコンクリート壁へのネジ止めを禁止しています。

コンクリート壁にL字金物を強力に接着する接着剤が市販されていますが、溶剤の匂いが問題となる場合は、粘着型転倒防止金具（震度7の振動試験に合格したもの）と他の転倒

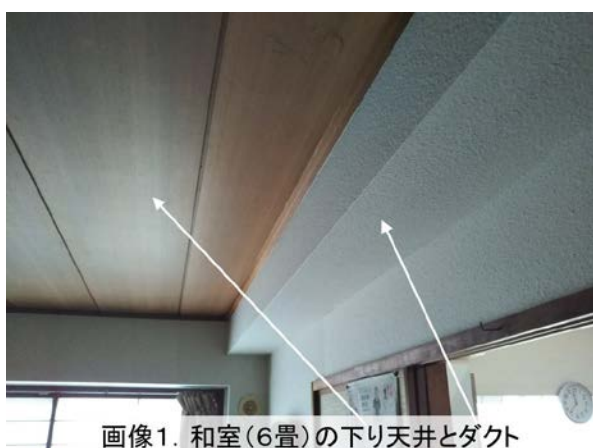
防止器具を併用する方法があります。

② 箱型スペーサー

箱型スペーサーは転倒防止金具に次いで有効な方法です。それに代わるものとして、空の段ボール箱で天井と家具の間を埋める方法もある程度有効です。

③ 突っ張り棒

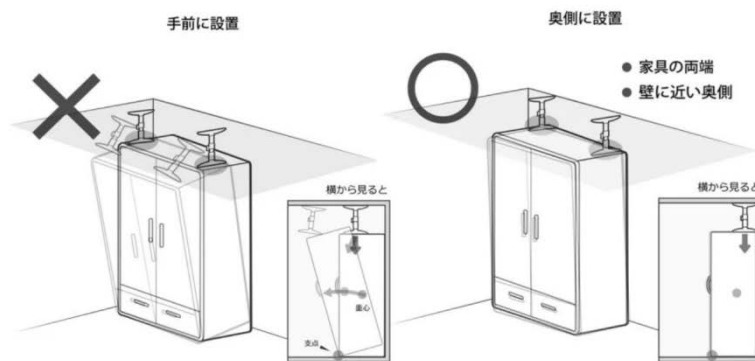
突っ張り棒は天井の強度がない箇所では効きません。具体的には下り天井である和室とキッチンでは突っ張り棒は効きません（画像1及び2）。ダクトの下に突っ張り棒を設置する場合は、厚板を挿入することで強度不足を補えます（画像1、3及び4）。ノックしてカツカツと乾いた音が鳴ればコンクリートで、コンコンと響けば下り天井又はダクトです。



居間・食堂と北側洋室の天井は突っ張り棒が効きますが、それでも震度6強になると突っ張り棒単独では転倒を防止できません。転倒防止マットなど他の家具転倒防止器具と組み合わせるか、壁にねじ止めする金具を用いる必要があります（出典7）。

出典7：商品テスト「家具転倒防止器具の性能」（東京都生活文化局消費生活部生活安全課、2015年3月）<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/test/documents/houkokusyo2.pdf>

突っ張り棒は家具の手前側よりも壁に近い奥側に設置の方が効果的です。



出典：平安伸銅工業 HEISAN DHINDO

<https://ec.heianshindo.co.jp/blogs/heian-how-to-use/earthquake-resistant>

天井が強固な箇所であっても、震度7の場合には突っ張り棒単独では転倒を防止することができません。家具の下端・手前に挿入する家具転倒防止板・マット（ストッパー）と併用するようにしてください。

④ 転倒防止が困難な家具

有効な転倒防止が難しい家具は、少なくとも寝室には置かず、普段滞在しない部屋（タンス部屋）を決めてそこに集めるだけでも安全性が高まります。

また家具する向きについて、就寝している人に向かって倒れたり、脱出を妨げたりする方向に設置しないようにしてください。

このほか、重いものは収納家具の高いところに収納しないようにしてください、さらに、家具から収納物が飛出さないよう開き扉を固定する器具を利用すれば、より安心です。

b) ガラス飛散防止

窓ガラス、並びに、食器棚や飾り棚のガラス戸に飛散防止フィルムを張るようにしましょう。窓ガラスの飛散防止フィルムは風害によるガラス飛散防止にも有効です。飛散防止フィルムをきれいに貼るにはコツと経験が必要ですが、最近は貼り直し可能な飛散防止フィルムが市販されています。

ガラスが飛散した場合、足元のケガ防止用にスリッパと懐中電灯の置き場を工夫しましょう。

吊り下げ型照明器具は震災時に激しく揺れて破損するので、天井直付け型に買い替えましょう。

(4) 各住戸の安全措置と家族との情報共有

a) 避難路の確保

- ・ 廊下に物をおかない（停電時の避難における転倒防止）。
- ・ バルコニーの避難方向の確認（35～36ページ）、避難ハッチ周り、隣家との仕切り板周りは物を置かない。

b) 津波浸水

一階の住戸の床下高さが1.1mあるため、ハザードマップが想定する床上浸水の範囲外となります。しかしながら想定外の津波が来ることもあり得ます。しかも津波は最短で1分で最大波が平潟湾に到達する場合があります。このため、一階居住者は大きな地震が発生したら、ご自宅の浸水防止対策よりも避難を優先させ、速やかに階段の3階以上に避難しましょう。

c) 消火器の使用期限の確認と使用方法の確認

d) 情報収集方法（添付1「金沢区防災マップ」～防災Eメールの登録」24ページ）

- ・ 停電時に津波情報を入手する方法の事前確認

もし津波警報が出された場合、管理センターは所員の避難を最優先とするため、津波警報を一斉放送できない場合があります。居住者各自で防災ラジオなど、停電時でも地震・津波情報を入手できる手段を確保しておきましょう。

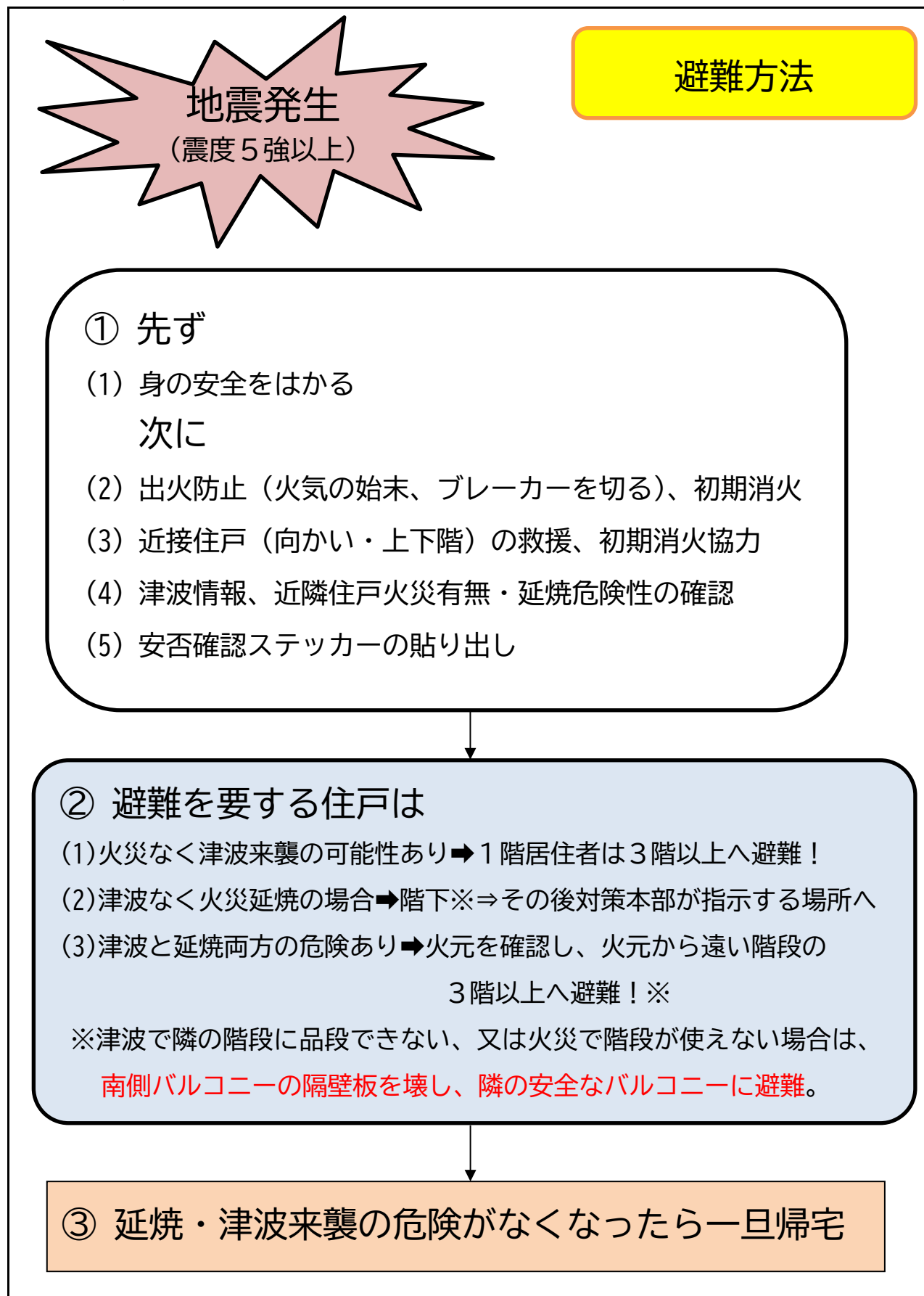
- ・ 災害用伝言ダイヤルの活用方法の事前確認

e) 地震発生直後に必要な物品の収納場所の確認

懐中電灯、スリッパ（床に飛散したガラスで足を怪我しないように）、携帯ラジオ（津波情報の入手）、携帯※、手回し発電機、簡易トイレ（震災後は水洗トイレが使えなくなる）

※携帯は停電時も管理センターの2階で充電可能

3.2 地震発生時と避難



① 地震発生時

- (1) まず家具の転倒などから身を守るため、テーブルや机の下に身を隠す。
- (2) 調理中の場合、台所は熱湯・油によるやけど、刃物その他によるケガのリスクが高いため、まず台所から離れる。震度5強以上でのガス供給の自動停止が義務付けられている。
- (3) 慌てて外に飛び出さない。当パークシティの扉と枠は耐震保証されている。
- (4) 揺れが収まったら、
 - ・ 床に散乱するガラスで怪我しないようスリッパ（停電中なら懐中電灯も）を確保
 - ・ 火気の始末・初期消火、ブレーカーを切る（ヒーターや白熱電球等に可燃物が接触していないか確認）
 - ・ 携帯、ラジオ、一斉放送等で津波や火災の情報の確認
- (5) 住戸内の確認が済んだら、扉に安全確認ステッカーを貼り出し※1、※2、向い及び上下階の安否確認、救援、初期消火への協力（消火器は手前から奥に向かって、左右にほうきで掃くように。天井に火が回ったら消火器では対応不可）

安否確認ステッカー	☐ 無事です（在室中） ☐ 避難完了しました
地震や火災などで避難する場合、安否を確認できるステッカーを住戸の玄関扉に貼ってください。	通信欄（避難場所） パークシティ金沢八景

※1：高齢者、障害者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人などの方（要配慮者）、とりわけ災害発生時の避難等に特に支援を要する方（避難行動要支援者）は、防災・防犯協議会が毎年行う「要援護者マップ」アンケート調査にご回答ください。

※2：上記アンケートに関わらず、地震によって支援が必要となった方は、安否確認ステッカーの通信欄に「支援求む」とお書きください。

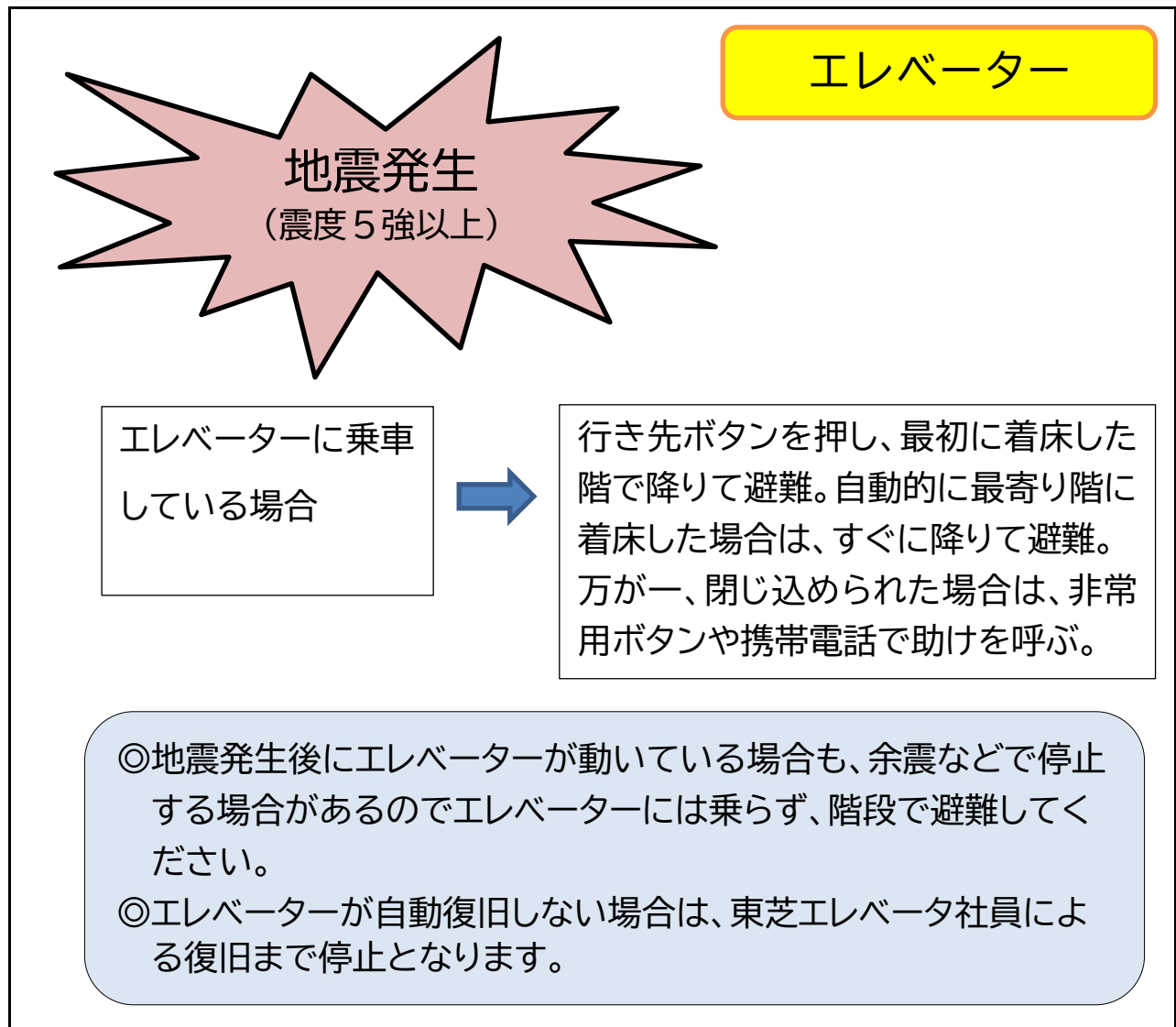
② 避難

- ・ 大きな地震が発生したら、管理センターからの津波警報等の一斉放送がなくても、居住者それぞれが防災ラジオ等で津波情報を収集し、また、どこかで火災が発生していないか周辺の状況を把握してください。
- ・ 1階の居住者は、念のため、近隣居住者にも呼び掛けつつ階段の3階以上に速やかに避難してください。
- ・ 延焼の恐れがある住戸は延焼の恐れのない隣の階段に避難。ただしその際津波浸水の恐れがある場合は、バルコニーの隔壁板を蹴破って隣の安全なバルコニーに避難※。
- ・ エレベーターは使用しない。

※：たとえ津波の心配がない場合であっても、泥亀一丁目公園多目的広場は、最新情報が入手できずトイレもないため、避難先としては適切ではありません。また、地域防災拠点（八景小学校）で当パークシティに割り当てられている避難スペースは数世帯分しかないのです、やはり避難先として適切ではありません。

ただし、実際に床上浸水、出火・延焼した居住者、並びに、要配慮者・避難行動要支援者の避難生活場所については、対策本部にご相談ください。

③ エレベーター



④ 外出中

○屋外にいるとき

- ・ 頭を保護して一時避難
- ・ 壁や崖、海、川には近づかない

○ビル・地下にいるとき

- ・ 施設の責任者等の指示に従って落ち着いて行動

○電車に乗っているとき

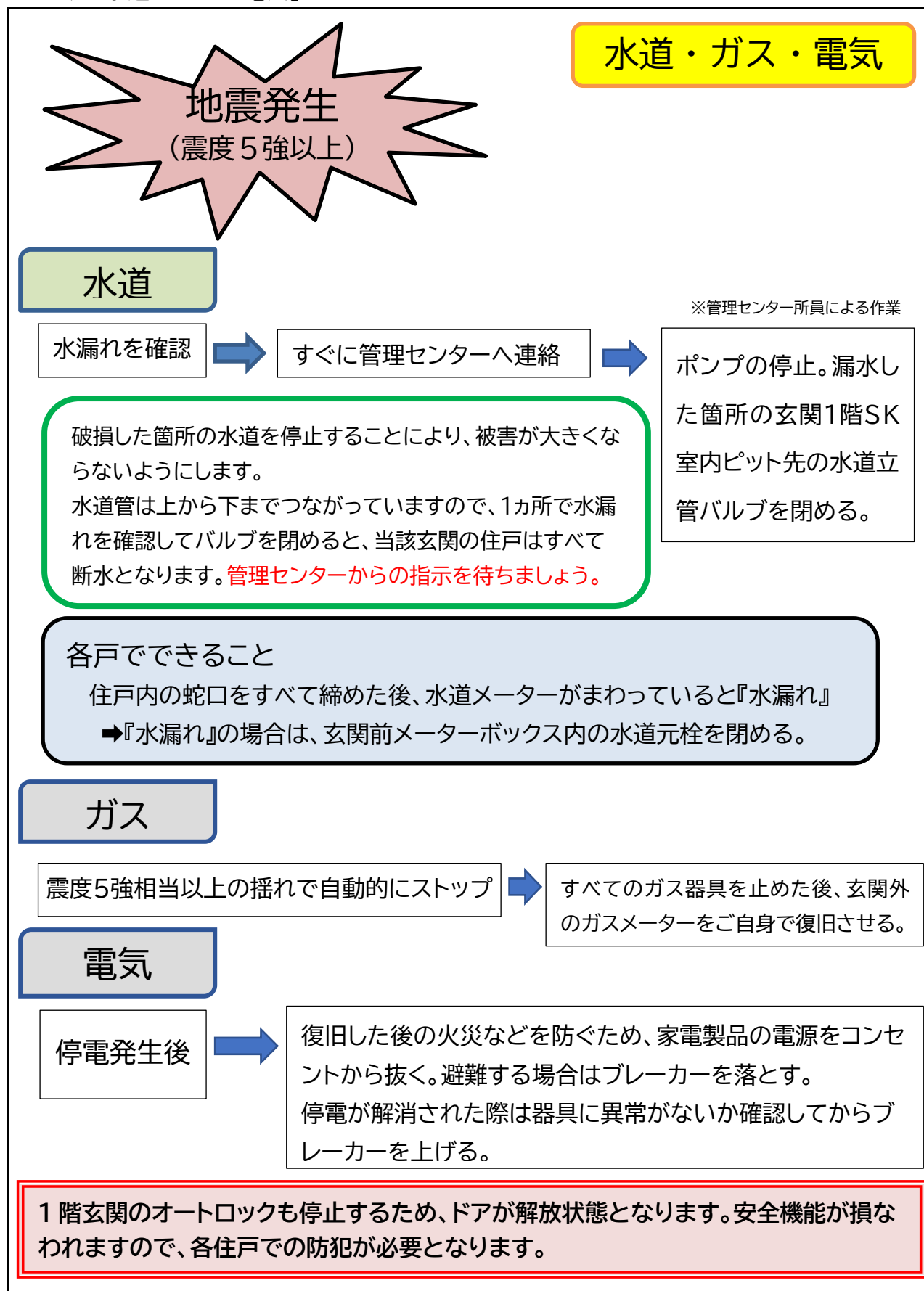
- ・ 乗務員の指示に従い冷静に行動

○川や海にいるとき

- ・ 津波の恐れがあるため、できるだけ高いところに避難

3.3 ライフラインの点検と2次被害の防止

a)「水道・ガス・電気」





排水・トイレ

災害によって排水管が破損している恐れがあります。汚水の拡散によって衛生環境が悪化することを防ぐため、水を流さないでください。

各戸でできること

- ① 災害時に使用するトイレ用品の準備。
非常用トイレ等を使用し、尿尿等は袋に入れて消臭剤をかけて密封し、バルコニーで保管する。
- ② 生ごみなども尿尿と同様に、各戸のバルコニーで保管する。
(ごみ置場は使用できません。)
- ③ トイレ等の排水縦管スペースの点検口と、台所シンク下にある床下の点検口を調べ、異常があれば管理センターに通報する。



管理組合でできること

- ① マンホールトイレの設置。
マンホールの上に災害用トイレ・トイレテントの設置。宮川から水をくみ上げて排水。
- ② 防臭BOS袋(臭いの漏れにくいビニール袋)の配布。※数に限りがあります。

排水管破損が分かった場合、排水しないよう水道立管バルブを閉めるので断水します

地震発生後、家族の安全が確認出来たら、住戸内のライフラインを点検し、漏水や通電火災などの2次被害の発生・拡大を防止します。また、お隣の安否も確認し、助け合いましょう。

a) 水道・ガス・電気

① 水道

地震発生後、水漏れを視認した場合及びすべての蛇口を締めても水道メーターがまわっている場合は、被害を拡大させないように直ちに管理センターに連絡してください。

② ガス

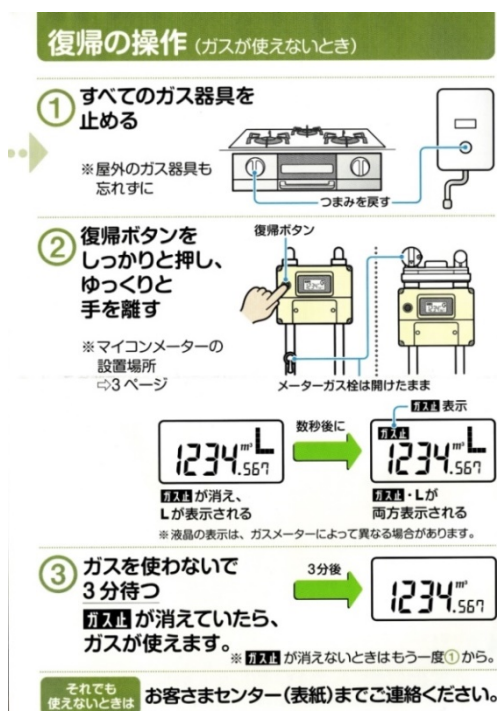
自動的にストップしたガスを復旧するには、各住戸のマイコンメーターの取扱説明書をご確認ください。

③ 電気

停電が復旧した際に発生する「通電火災」を防ぐため、配線の損傷、ヒーターと可燃物の接触などがないか点検しましょう。

④ 階段入口

停電時は階段入口のオートロックが停止してドアが開放状態になります。



マイコンメーターの取扱説明書の例

b) 排水・トイレ

当パークシティの排水縦管は耐震仕様ではないため、震度5強以上の地震が発生した場合は、管理センターから連絡があるまで水道とトイレが使用できず、シンクに水などを捨てたり、風呂に溜まった残り湯を排水すること也不可能です。

損傷した排水管の普及にはかなりの日数を要するのはもとより、もし排水管が損傷してなくても損傷していないことが確認されるまでにかかなりの日数を要する場合があります。

当パークシティでは各住戸に2つの排水縦管が通っており、うちトイレその他用の排水縦管のパイプスペース (P.S.) のどこかに点検口があります。一方、台所その他用のパイプスペースは点検口がありませんが、台所シンク下の点検口から床下の浸水の有無が確認できます。これらの点検口を調べ、異常があれば速やかに管理センターに連絡してください。

水洗トイレの使用禁止がかなり長引くことを前提にして、1回分をパックにした簡易トイレの代わりに、便器カバー用ポリ袋 (45リットル)、排泄物用ポリ袋 (45リットル、不透明)、匂いが漏れにくい保管用ポリプロピレンの袋 (防臭BOS袋)、凝固剤及び消臭剤をそれぞれ備蓄しておき、10・11ページを参考にして、ご自宅の便器にセットして使用することをお勧めします。

また、飲料水の備蓄や水を運ぶポリタンクの用意だけでなく、使用した水をシンクに捨てずに済む生活を工夫してください。

(例) 食器にラップを掛けて使う。水のいらない無水ハミガキ、ウェットシート、泡タイプの清拭料、ドライシャンプーを使う。使用済みの水はバケツに溜めてバルコニーの排水溝に流す。

4. 当マンション全体としての対処

地震発生後は時間との競争で、当マンション全体として対処が必要です。基本は各戸での対処ですが、ご家族の安全が確保され、余裕がある方は、ぜひご協力ください。

4.1 地震への備え

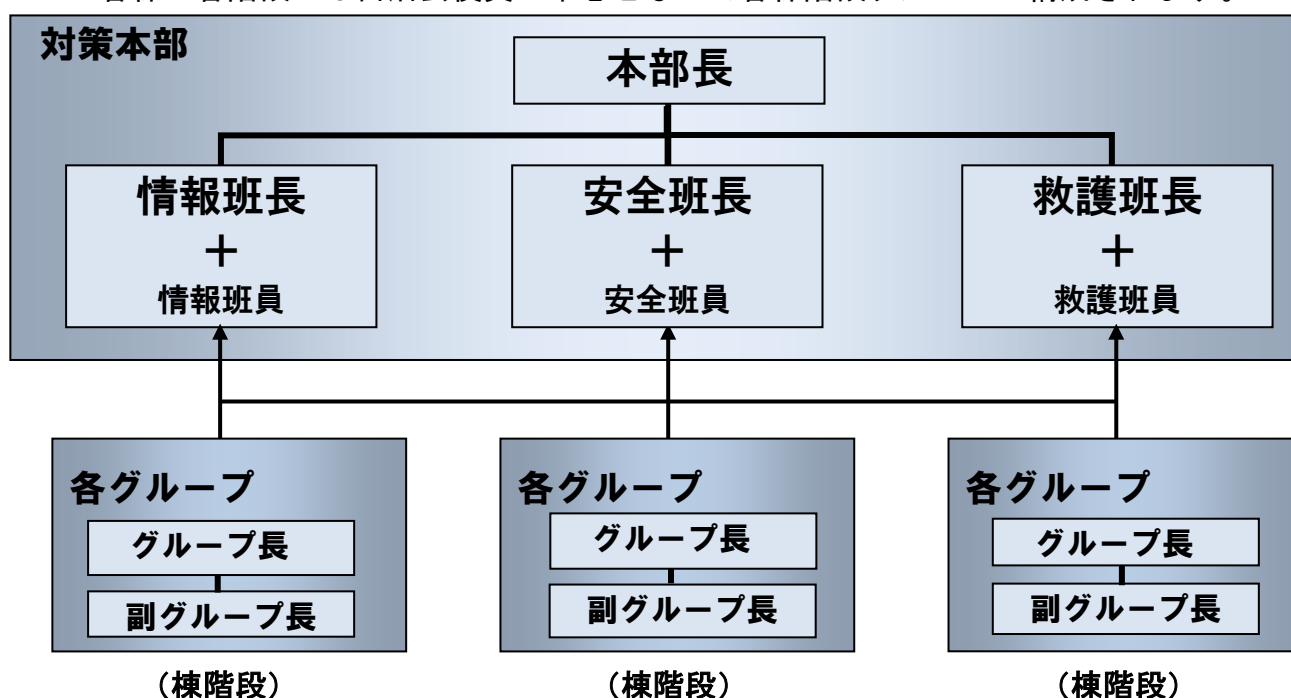
防災・防犯協議会は、当パークシティの脆弱性の把握と改良、起こりうる事態を踏まえた防災訓練、住戸内のリスク低減と備蓄についてのセミナー、要配慮者・避難行動要支援者の把握、震災時に必要となる専門家の把握などを企画・実施します。

4.2 地震発生時

地震の発生時間によりますが、初期は、当マンションに居られる方で対応することとなります。本震災マニュアルを基に、臨機応変に対応ください。

その後、管理組合理事及び各棟幹事、自治会役員並びに居住者から構成される対策本部が管理センター内に設置されます。

各棟の各階段には自治会役員が中心となって各棟階段グループが構成されます。



(1) 安否確認と救出

- 各階段の自治会役員は、ドアに貼り出された安否確認ステッカーにより各戸の状況を確認します。安否確認ステッカーを貼り出していない住戸はドアをノックし、郵便受けから声掛けします。必要な場合、救出作業を実施。もし施錠されている場合は対策本部の指示を仰ぎます。
- 応急手当方法は、添付2（26～27ページ）をご参照ください。
- 管理組合として、添付6（57～58ページ）の物品を倉庫等に準備。

(2) 避難支援

- 3.2② 避難（16ページ）で避難を要する居住者のうち、「要援護者マップ（災害用）」で避難行動支援を求めている者に対し、担当自治会役員は、避難を支援

し、必要に応じて対策本部に応援を要請します。

(3) 初期消火支援

- ・ 管理センター所員は、火災報知器の情報をもとに該当する住戸に電話で火災発生の有無を確認のうえ、119に通報するとともに、出火した住戸の初期消火に対策本部に要請します。

(4) 情報伝達

- ・ 火災の発生、負傷者の発見など緊急を要する場合には、119への連絡とあわせて管理センターに電話してください。地震発生直後は管理センターに電話が殺到して他の緊急対抗に支障を来すため、上記以外の電話は控えてください。※1

※1：光電話、電源を要する電話機など、停電時に使用できない固定電話があるので、停電時に使用可能なご自分の電話をあらかじめ確認しておきましょう。ただし、固定電話・携帯電話ともに震災直後は繋がりにくくなります。

- ・ 当パークシティでは停電時に非常発電設備が自動起動し、各戸のインターホンを通して一斉放送することができます。地震発生時にはインターホンからの情報に注意してください。※2

※2：管理センターの火災監視盤と放送盤は津波が建物内に浸水すると使用不能となり、火災監視及び一斉放送はできなくなります。居住者それぞれが防災ラジオ等で津波情報を把握し、近隣同士で安否確認、情報共有、初期消火、避難など協力し合えるようにしておきましょう。

(5) 当マンションの主な共用設備と震災時の影響については、添付3（28ページ）をご参照ください。

(6) その他

- ・ 危険が想定される場合、安全が確認されるまで、管理組合として建物内への立ち入り制限をお願いすることがあります。

4.3 避難生活

- (1) ライフライン（ガス、水道、下水、電気等）が破損した場合であっても、備蓄等を利用して在宅で避難生活を行うことが原則です。
- (2) 床上浸水・出火・延焼した住戸、並びに、介護等の支援が必要な住戸については、パークシティ外の避難生活場所について対策本部と相談しましょう。
- (3) ライフラインの復旧は電気で週単位、上下水道、ガスで月単位の時間がかかる様です（阪神・淡路大震災実績）。ライフラインの復旧が長期化する場合には、当マンション、ならびに首都圏の被害状況を基に、管理組合、自治会を中心にその後の対処を決めていくこととなります。なお、各々の主な役割分担は以下となります。
 - 管理組合：復旧計画の策定と推進
 - 自治会：公的機関等との連絡・調整
 - 各居住者：管理組合、自治会に協力、親族・友人の家への越境避難の検討

家庭での非常用品の備え

まず最初の避難で 持ち出すもの

品 名	種 類	数 量	備 考
飲料水 ※ 1			
非常食			
携帯ラジオ			
懐中電灯			
予備の乾電池			
アルミ製保温シート			
手袋			
ナイフ			
ライター			
身分証明書の控え			
十円玉 (公衆電話用)			
テレホンカード			
住所録			
救急セット			
タオル			
チリ紙			
衣類			
生理用品			
ビニール袋 (またはゴミ袋)			
雨具			
ホイッスル (笛)			
携帯電話			
携帯電話の充電器 ※ 2			

避難後の生活に 必要となるもの

品 名	種 類	数 量	備 考
飲料水			
携帯用浄水器			
ポリ容器			
非常食			
卓上ガスコンロ (または固形燃料)			
予備のガスカートリッジ			
食器類			
調理器具			
ウェットティッシュ			
トイレットペーパー			
生理用品			
紙製下着			
簡易トイレ			
ロウソク			
予備の乾電池			
布製ガムテープ			
台所用ラップ			
テント			
寝袋			
ロープ			
使い捨てカイロ			
ドライシャンプー			
洗面用具			

※ 1 飲料水は 3 日分 (一人一日 3 リットル) を目安としましょう。

※ 2 バッテリー式の使い切りタイプの充電器。機種に合うタイプを用意しておきましょう。

添付1b「金沢区防災マップ」から抜粋

防災用品の準備

いざというときのために、家での備蓄、また避難するときにはすぐ持ち出せるように非常持ち出し袋を用意しておきましょう。

家での備え……………食糧・水・生活用品等は最低3日分の蓄えが必要です

■ 食糧



アルファアミ・レトルト食品

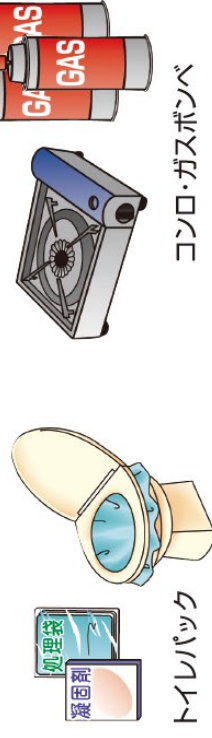
缶詰

■ 水

1人分=1日3リットル×3日分



■ トイレバック・燃料等



コンロ・ガスボンベ

非常持ち出し品の例……………すぐに持ち出せるようにリュックなどに入れておきましょう



■ 1人に1つ用意して、すぐに出せる場所に置きましょう。



災害時の応急手当

地震などの大きな災害が発生した時、多数の負傷者が瞬時に発生します。
あわてずに適切な応急手当を行えば、症状を軽くすることができます。
いざという時に役立つ応急手当をおぼえておきましょう。

外傷の手当

1. 傷口が汚れていたら、きれいな水で洗い流します。
2. きれいなガーゼや布などを当て、包帯を巻きます。

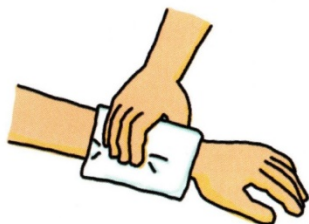
★頭部外傷は、頭皮に血管が多くあるため、出血量が多く、皆さん驚きますが、慌てないで指で創縁（傷口の縁）を圧迫し、止血します。

直接圧迫止血法

清潔なガーゼ、ハンカチ、シーツなどを直接傷口に当て、手のひらで圧迫します。この時、心臓よりも高い位置で傷口を圧迫すると、効果的です。

<注意>

- 古いクギを刺してしまうと、化膿したり、破傷風にかかる恐れがあります。すみやかに医師に診てもらってください。
- ガラスが奥深く刺さってしまったら、血管などを傷つける恐れがありますので、抜かずにそのまま医師に診てもらってください。
- 子供は少量の出血でもショックに陥ることがあります。応急手当後は、すみやかに医師に診てもらってください。



打撲などの応急手当

打撲

- 特に骨折や皮膚に傷などが無い場合は、患部に湿布薬を貼ります。
- 湿布薬がない場合は、氷のう、またはぬらしたガーゼやタオルをひんぱんに替えて冷します。



ねんざ・脱臼

- 患部に湿布薬を貼って冷します。
- 湿布薬がない場合は、氷のう、または、ぬらしたガーゼやタオルをひんぱんに替えて冷します。
- 患部の関節を動かさないように、三角巾、ふろしきなどを使って固定します。



<注意>

- ねんざは、骨折と見分けにくい場合もあります。骨折かどうか迷ったら、骨折の応急手当を行ってください。
- 脱臼と思われる場合には、自分で無理に元に戻すと、神経や血管を損傷させるので、行わないでください。
- 応急手当を行ったあとは、医師に診てもらってください。

心肺蘇生法

人工呼吸や心臓マッサージなどの心肺蘇生法は正しい知識を身につけるために、応急手当の講習会を受講しましょう。

詳しくは最寄の消防署にお問い合わせください。



骨折の応急手当

骨折の見分け方

骨折の時は、激しい痛みを訴えていたり、はれがひどくなります。
手足が極端に変形していたら、明らかに骨折です。

脚部の骨折

- 1.衣類や靴は脱がすか切り開きます。
- 2.骨折した部位が動かないように、脚の両側に関節より長い副木を当てます。
- 3.体と副木の間には、タオルなどの当て物をします。
- 4.ガムテープでとめたり、タオルなどで縛って固定します。
- 5.骨折した部分は低くしないようにして、安静を保ちます。



上腕部の骨折

- 1.副木を当てて骨折部位の上下を固定します。
- 2.三角巾で吊ったあと、更に胸部に固定します。



副木になるもの

週刊誌、ダンボール、傘、杖などが副木として利用できます。



<注意>

- 骨折かどうか迷ったら、傷口の手当をしたあと副木で固定してください。
- 骨が露出していたら、不潔な手で触れないように注意してください。
- 副木は、痛みが増すような位置ではなく、楽な位置で固定してください。
- 副木が傷口に直接触れるようならば、きれいな布を当ててから、使ってください。
- 神経を傷つける恐れがあるので、患部をむやみに触れないでください。

やけどの応急手当

- 1.やけどをした場合には、痛みが取れるまで清潔な流水で十分に冷します。顔など流水で冷しにくい場所は、水でぬらした清潔なガーゼやタオルをひんぱんに替えて冷します。
- 2.服を着ているところをやけどした場合は、服の上から十分に冷した後、服をハサミで切り取ります。冷したあと、清潔なガーゼかタオルなどで、おおいます。

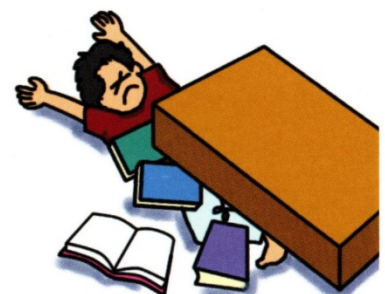


★水がない場合は、すみやかに医療救護所などで医師に診てもらってください。

クラッシュシンドローム（挫滅症候群）とは

クラッシュシンドローム（挫滅症候群）とは、長時間、身体が圧迫された場合に筋肉の組織が破壊され、その破壊された筋肉から発生した有毒な物質が、圧迫が解けた後に、血液中に溶け出して全身にまわる症状をいいます。

- 発生した有毒な物質が腎臓の機能を低下させ、あるいは、突然、心停止をひきおこしたりします。
- 長時間身体の一部でも圧迫が加わった場合には、全身の症状が軽く見えても、暗赤色の尿が出たり、腫れたり、感覚がなくなっていたら、すみやかに医師に診てもらってください。



添付 3

マンションの概要

マンション名: パークシティ金沢八景
 住所: 神奈川県横浜市金沢区泥亀一丁目28番
 総戸数: 757戸 棟数: 6棟 階数: 地上14階建て 構造: 鉄骨鉄筋コンクリート造
 竣工年月日: 昭和60年3月19日(新耐震基準)～昭和61年3月19日(新耐震基準)
 事業主: 三井不動産株式会社 建設会社: 三井建設(株)・清水建設(株)・(株)渡辺組
 管理会社: 三井不動産レジデンシャルサービス(株)

震災発生時の拠点・グループ分け

対策本部 : 管理センター
 待避所: 対策本部が指定する場所
 震災用備品の保管場所: 防災倉庫(管理センター棟西側・北側、集会室4、B棟西側)
 グループの分け方: 各棟・階段単位
 グループの集合場所: 各棟・各階段エントランス前

主な共用設備と震災時の影響

名 称	震災時の影響(地震、停電)	特記事項
エレベーター	(「地震時管制運転装置」・S波感知式(標準)) 震度4～5以上の地震発生→最寄階に停止→開扉→閉扉→運転休止 (復旧は自動の場合と東芝による場合がある)	■「閉じ込め防止」のため、災害時はエレベーターを利用しないこと。 ■万が一閉じ込められた場合は無理に脱出しようとせず、非常ボタン等により助けを待つこと。 ■最寄階に停止した場合、エレベーターの扉は約15秒間開いて再び扉が閉まりますが、籠内の開くボタンを押せば内側からは扉は開きます。外側からは開くボタンを押しても扉は開きません。
給水ポンプ (B棟西端)	停電により運転停止(=断水)	■断水に備え、各戸で非常用の飲料水等を確保しておくこと。 ■水道本管直結の水栓は使用可能。(ただし、水道本管等に異常が無い場合に限る。) ※当マンションは、給水ポンプ室内に蛇口6個を設置した非常用給水栓が設置されていますので、災害時に受水槽内の水の使用は可能です。
受水槽	特に影響無し	■受水槽内の水は生活水として利用可能。 ■利用時には鍵等が必要。 ※機種によっては、地震の揺れにより遮断弁が起動するもの有り。 ※緊急時、取水水栓器具がポンプ室内、配管に設置済。 給水補助器具取付け方法を確認のこと。
照明設備	停電により不点灯	■非常照明はバッテリーにより停電後一定時間は点灯する。
インターホン	停電により利用不能	■共用部(エントランス等)専有部ともに利用不能。 ■(非常発電時)管理室からの全戸放送: 可能 ■緊急地震速報システム: 無し
セキュリティシステム	停電により機能停止	■共用部・専有部ともに各種警報が移報されない。
自動ドア	停電時は手動でドアを開閉することができます。	■防犯上の対策を強化する。
自家発電設備	停電時に移動→管理センター内の一部設備に電源を供給	■燃料が枯渇した場合は運転不能となる。 ※電源の供給対象設備を確認しておく。

添付4 パークシティの防災関連設備・機器等 (全居住者向け)

(1) 消火器

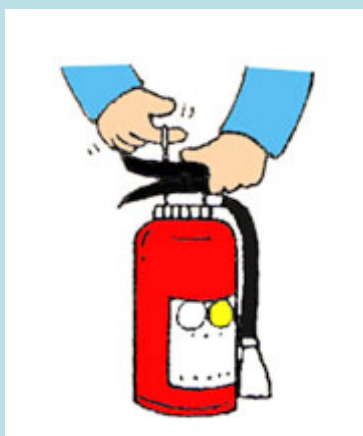
各階エレベーターホール
に設置されています。

操作方法を防災訓練
などでおぼえて
おきましょう

☆火勢に応じて無理せず
119番通報と応援の要請、
避難を優先してください



安全ピンを抜く



ホースをはずして
火元にむける



レバーを強く
にぎり噴射する



ホースの先端をにぎります
手前から火の根本を左右にほうきで掃くように放射します
天井に火が回ったら消火器では対処不可能です

(2) 火災報知機(発信器)

1F 階段室、3F 以上の連結送水口ボックス、9F 以上の屋内消火栓ボックスに設置されています。

☆火災を発見したら直ちにボタンを押して、周囲に火災発生を大きな声で知らせてください。

☆特に**屋内消火栓で消火作業時の消火ポンプ起動スイッチ** となっていますので必ず押して下さい

☆火勢に応じて、119番通報、応援の要請、避難を優先してください。



(3) 火災感知器(熱式・煙式)

共用部分および住戸内に設置され
火災を感知して火災警報を発します。

差動式熱感知器の例
通常の温度から急激
な温度変化が見られる
際に信号を発します



定温式熱感知器の例
一定温度(80度など)
に達した場合に信号
を発します(台所に設置)



煙感知器の例
煙が充満してきた際
信号を発します(ELVホール)



**※住宅用火災警報機は共用の火災報知機
とは連動していません。**

(4) 非常用照明装置

エレベーターホールほか共用部分に設置されています。

内蔵バッテリーにより停電時におよそ 30 分間点灯します。



(5) 隔壁板(隔て板)

避難ハッチが設置されている住戸へ
バルコニーを通過して避難するため

非常時には、けやぶって避難します。

どちらが避難先か事前に確認してください。

避難の障害となるものを絶対に置かないよう
にしてください。

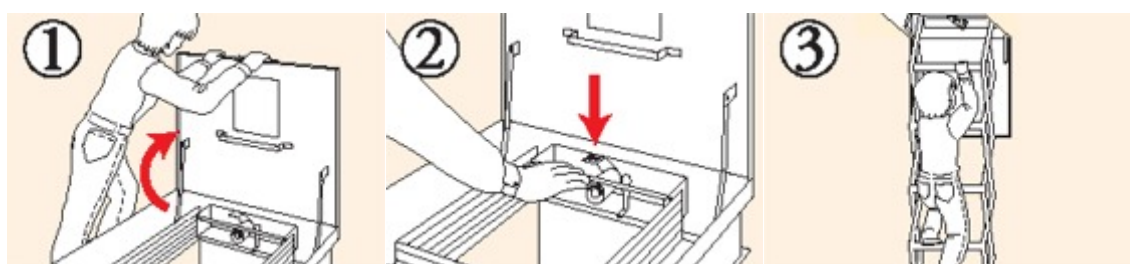


(6) 避難ハッチ・避難はしご

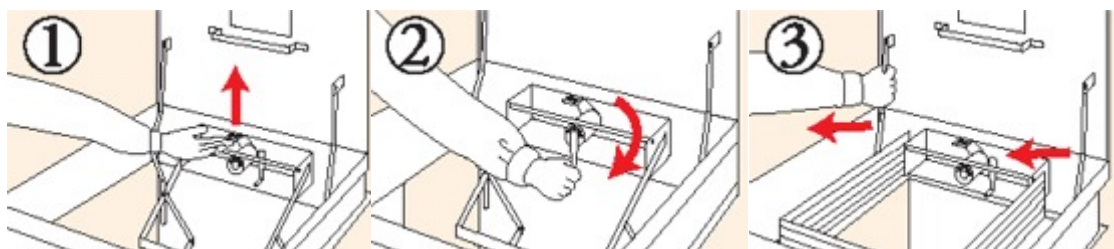
設置場所は次ページの図を参照

ハッチのふたを開け、下階に障害物が無いことを確認してボタンを押すと、はしごが自動的に下りて、避難できるようになります。

使用方法



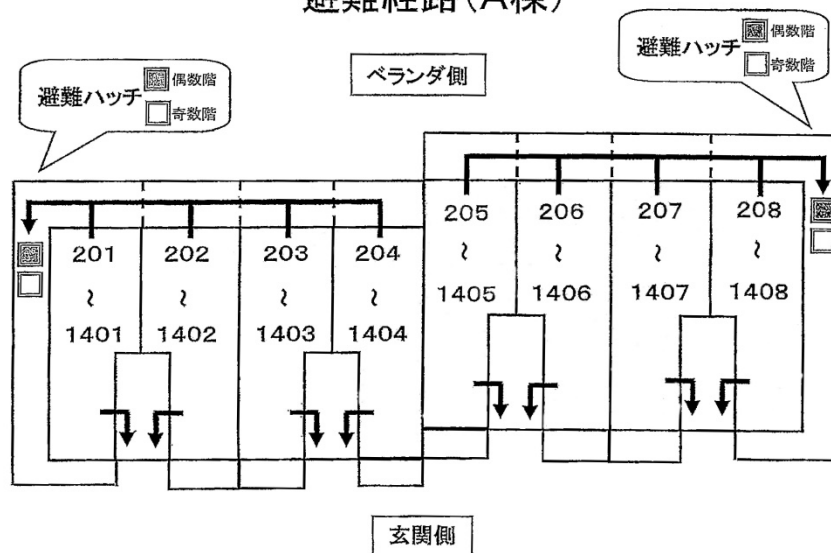
収納方法



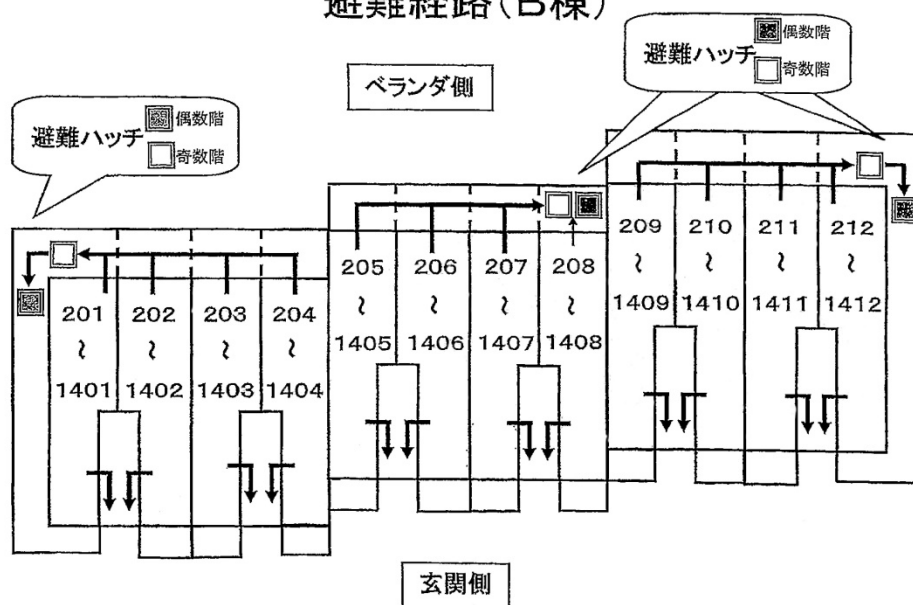
※非常時に使用する大切なものです。**周囲に避難の妨げになるようなものは置かないようにしてください。**

※避難はしごが**降下してくる場所には絶対に障害物となるものを置かないようにしてください。**

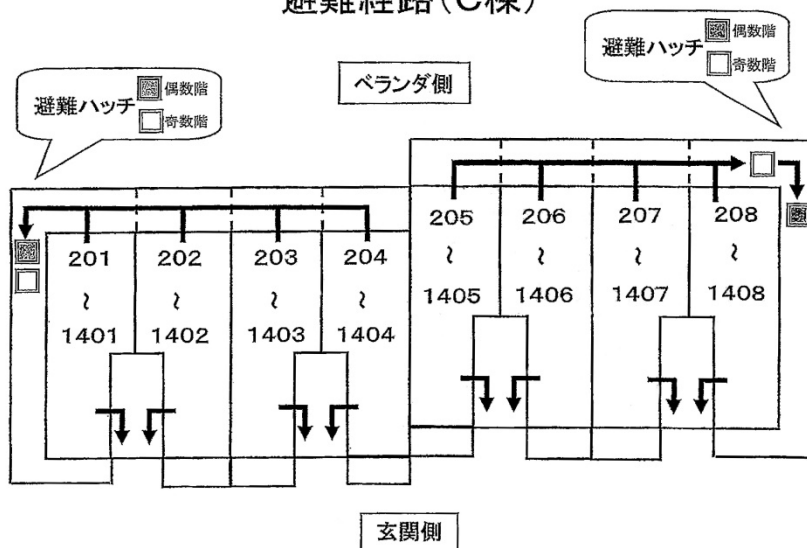
避難経路(A棟)



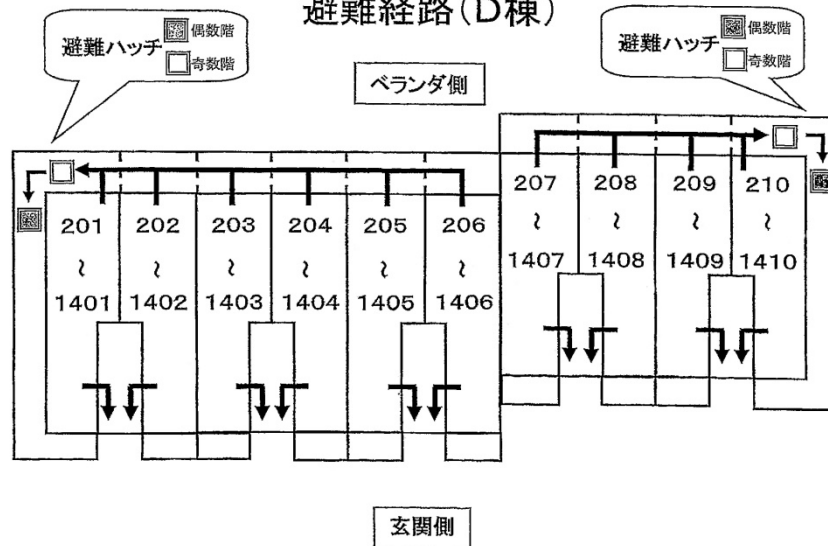
避難経路(B棟)



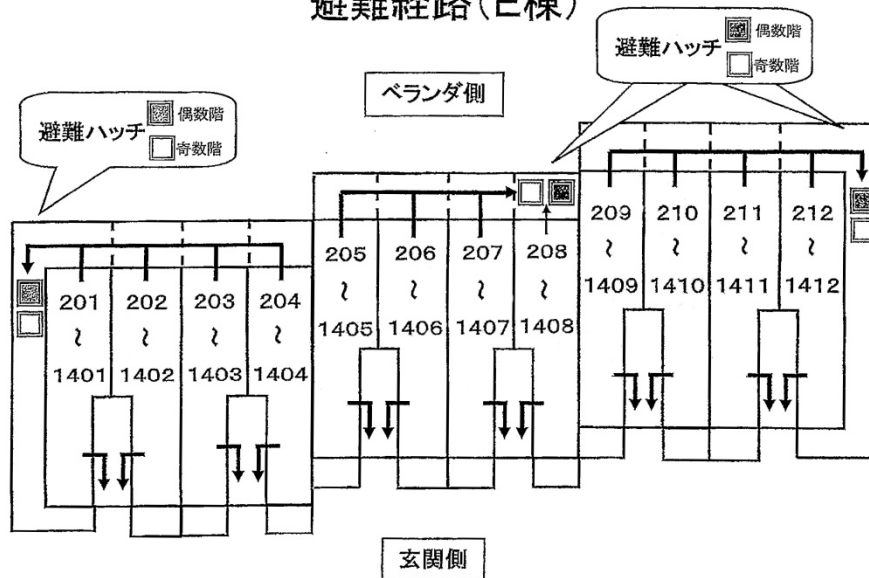
避難経路(C棟)



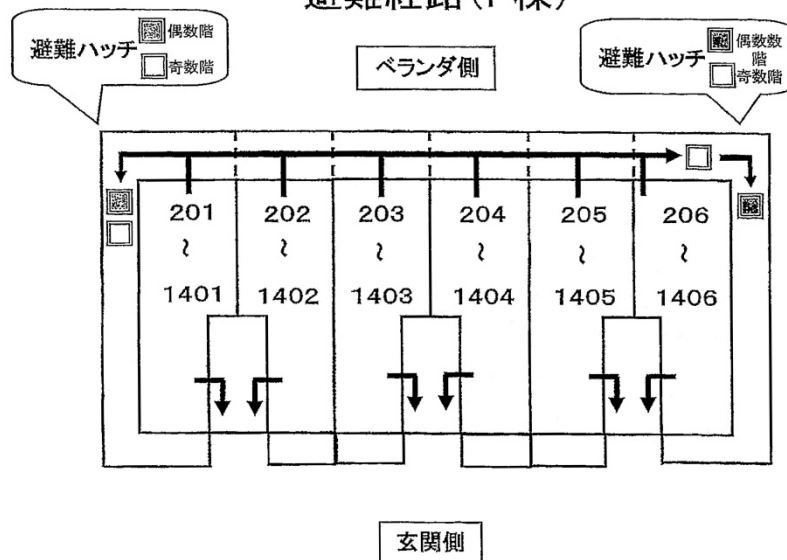
避難経路(D棟)



避難経路(E棟)



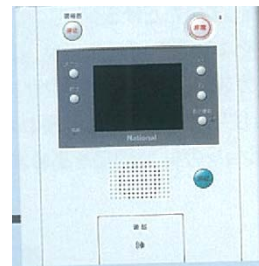
避難経路(F棟)



(7) インターホン設備

各種警報音・音声でお知らせします。

停電すると使用不能



一 火災 警報



「ファン・フォン・ファン・フォン・ファン・フォン火事です。
火事です。火災が発生しました。」

安全を確認のうえ、避難してください。」

※火災感知器が復旧すると停止します

一 ガス漏れ 警報



「ピッピッピッピッピッ・ガスもれです。」

使用中のガス器具を確認し換気をして

ください。その際、**絶対火をつけないように**
ご注意ください。

※ガスが感知されなくなると自動復旧します

一 非常 ボタンによる通報



「ピーポー・ピーポー・ピーポー非常発生」

管理センターからの応答をお待ちください

※復旧の場合は再度非常押しボタンを
押しなおして解除してください。

※警報音を止める場合は「警報音停止ボタン」を押して
停止できます。周囲の状況を確認して管理センター
からの呼びかけに伝えてください。

非常発電により、管理センターからの全戸放送が可能。

(8) エレベーター

エレベーターは緊急時には管制運転となります

- － 火災発生時

1階まで自動運転となり、着床後は停止
上がるときに火災感知しても一時停止後
1階へ下り、その後停止します。

- － 地震感知時(震度4～5以上)

最寄階に着床し、その後停止します。
避難には階段を使用してください。

- － 停電発生時

搭載バッテリーによりかごの中は非常灯
が点灯します。運行は停止されますが、
直ちに保守担当者が駆けつけ対応します。



(9) 自動ドア設備

停電時、自動ドア設備は手動で操作します。

- － 地震発生・火災発生または地域停電など、停電となった場合には、自動ドア設備は自動的に開錠・手動操作が可能な状態になります。
- － 手をはさまないようにゆっくりとガラス扉を横に引いて扉を開けてください。

（停電復旧後は自動で閉まり、自動復旧します）



(10) 移動式粉末消火設備

F棟北側立体駐車場内に設置された大型の粉末消火器です。

収納ボックス内側に使用方法が記載されています。

☆火勢に応じて、119番通報、応援の要請、避難を優先してください。



(11) 非常放送設備

ーインターホンスピーカーを通じて
非常放送(避難誘導など)を行います
【避難誘導放送の例】



・火災発生時

「◎◎棟、△△△号室より火災が発生しました
落ち着いて、〇〇階の方より1階へ避難して
ください。なお、エレベーターは使用しないで
階段をご利用ください。」

・地震発生時

「〇〇地区を震源とする地震が発生しました。
携帯ラジオなどで津波情報に注意し、もし津波警報が
出た場合は1階にお住まいの方は火の元を確認し、倒
壊物、足元に注意のうえ、階段の3階以上に避難してく
ださい。避難の際はブレーカー・水栓を閉め、安否確認ス
テッカーをドアの外に貼ってください。

非常放送設備は管理センター内
にあります。

停電時も発電機からの電力供給
により放送使用は継続します。
住戸内インターホンからの非常
呼出はできません。

